

横須賀市からの発表案件なしのため、質疑応答のみ

記者

2点質問させていただきます。1点目は先の総選挙についてですが、11区で当選した小泉氏の約14万7,000票、林氏の3万8,000票という投票数についてどう思われているのか。また、県内全体の小選挙区での結果について感想があればお願いします。

市長

はい。まず11区の件ですが、小泉代議士とは国や県とのパイプをつないでいただきましたが、さまざまな誤解や非難、環境大臣をやっていた時期にほとんど横須賀に戻れなかったというなどのハンディがあったと思います。しかし、この選挙活動を通して横須賀市民の不信感というのは払拭できたのではないかと考えています。色々なことがありましたが、一生懸命やられていたと思いますし、これからの時代にはなくてはならない人物だと思いますので、横須賀市にとってはかけがえのない政治家があれだけの票をいただいたということは、私としても連携を深めている者としてはありがたいと思っています。

それから県内についてですが、やはり自公に対抗する軸がないというか、私は元新自由クラブの人間で保守二党論者です。55年体制の延長のような政治状況は、今の仕組みでは変わらないと思います。

以前から小選挙区では、民意を正確に反映できないので、定数2～3という中選挙区に変えるべきと考えています。

記者

2点目ですが、先月末、アメリカ海軍長官が来日され、米軍基地と自衛隊基地を視察されたかと思います。その際、市長もお会いになっていると思いますが、どのような話をされたのか教えてください。

市長

日米安全保障条約を主軸として、安定的に基地が運用されるということが私にとって大切なことであるということは申し上げました。その上で、現在の国際状況の中で、これから横須賀にある基地の重要度は増してくるのであろうと考えられます。そういった意味で海軍長官が面会を希望されたものと理解をしているので、それ以上深いことは話しませんでした。

記者

ありがとうございます。

記者

総選挙に関連しまして、今回、県内で11区の投票率が1番低かったのですが、これに関して市長のお考えと今後の投票率アップについて何かお考えがあれば教えてください。

市長

横須賀の場合、投票率は関係ないのではないかと考えています。

ただ、環境大臣をやられていて横須賀に来る機会が少なかつただけの話です。信念を持って何かをするということに対して喝采をする地域だと私は思っていますから、総裁選で敗れたことはどうでもよく、これからますます大きくなっていかなきゃいけないと思っています。

しかし、一部では過大な期待をしている人たちもいるでしょう。また、顔も見せないからもう横須賀を捨てたのではないかと思う人もいるでしょう。その分を割り引いて投票率が低くなったのではないかと思っています。

**記者**

つまり地元に戻ってくる機会がなかったからということでしょうか。

**市長**

はい。

**記者**

投票率アップのためにも帰って来てくださいということですか。

**市長**

民主主義の世界なので、投票率を上げるために何かするというのではなく、国民のため、私は市民のために何ができるかということ判断するための材料があればいい話であり、得票率アップさせるために何かするものではないと思っています。

**記者**

ありがとうございました。

**記者**

先日、浦賀の周遊バスに乗り、レンガドッグと城ヶ崎の灯台を見ましたが、観光の資源としてこれから期待される場所であると思いました。ただ、少し残念だったのがレンガドッグのクレーンが解体されなくなっていたことです。そもそも市の所有物となっていたのでしょうか。

**市長**

浦賀に住む方々にもシンボルなので是非、残してほしいという依頼は受けたのですが、修繕に1億円前後、維持管理費に毎年約1,000万のコストがかかり、とてもお金は出せないということで、断腸の思いで皆さんにご理解をいただいて撤去をさせていただきました。

仰るように文化財に残さなくてはいけないということはよく分かっているつもりなのですが、それに代わるようなものができればと考えています。

**記者**

MEGURU PROJECT ツアーの実証実験という位置づけであると思うのですが、今回の成果を検証をして、来年度以降、浦賀を中心とした観光展開についてどのようにお考えでしょうか。

**市長**

ルートミュージアム構想の中の1つなのですが、MEGURU という実証実験をすることにより、市外の方がどのくらい来て、どこに興味を持つのかなどを見てみたいと思います。

それは京浜急行電鉄さんとも連携をしなければいけないということと、それから今後の浦賀レンガドック周辺区域の将来的な利活用については、住友重機械工業さんとも連携しながら、どのようなコンセプトでやったらいいかということ、区域全体の動向の中で見定めることができると思っています。私の頭の中にさまざまな絵はあるのですが、今度の実証実験で何が1番市民や市外の方々に喜ばれるのか、横須賀市の財政も含めてこれから来年に向けて考えていければと思っています。

#### 記者

市内と市外の方の参加比率の現状を教えてください。

#### プロモーション担当課長

現在、10月23日から始まり6日間の開催をしており、浦賀ドッグの入場者数は約6,000名です。ご質問のあった入場者の市外と市内の割合についてですが、アンケートはとっているのですが、集計がまだできていないため、割合はまだ算出できていません。

#### 記者

分かりました。

#### 市長

皆さん、すごく喜んでいられたのでこれはよかったなと思っています。あの流れができあがれば浦賀が面白くなるのではないかと思います。

(終了)